長期休業期間前に交通安全の意識を高める学習の事例　交通

小学校　第２学年　特別活動（学級活動）

授業づくりのポイント

○具体的な場面の絵から起こりうる危険を予測し、それを回避する行動を考えさせる。
○「交通安全教育ＤＶＤ」を見て、安全な行動についての理解の定着を図る。

単元（題材）について

１　題材名　「楽しい夏休みの過ごし方について考えよう」

２　目　標

Ⅱ－１　道路の歩行と横断および交通機関の利用

道路における様々な危険や交通法規について理解し、安全な歩行ができるようにする。

３　教材化の視点

道路の安全な歩行については、普段歩いている道路を例に挙げ、天候や時間帯等に関わる危険を意識させながら状況に応じた歩き方ができるように日常的に朝の会や帰りの会等に一声指導をしている。また、４月の交通安全教室では、５～６名のグループになり、学級周辺の道路を歩く実践を通して、安全な歩行について学習している。

今回の学習では、視覚資料で危険な状況を具体的に提示することで、危険な状況が起こりやすい状況を把握させるとともに、危険を回避する行動を考えさせることで主体的に安全を意識した行動ができるようにする。

指導計画（１時間扱い）

時間	○主な学習活動	◎安全教育の視点に立った留意点
１（本時）	○提示された具体的な場面について、今までの経験や既習事項を基に、どのような危険があるかを予測する。 ○危険を回避するための安全な行動を考える。	◎具体的な場面は、安全通知や小学校低学年が対象となった事故事例等を参考にし、児童が実感をもって考えられるようにする。 ◎道路における様々な危険や交通法規について理解し、安全な歩行ができるようにする。
事後指導	○日常的な安全指導の時間に、危険を回避するための安全な行動ができているかを振り返らせる。 ○夏休み期間中に交通安全について意識して過ごせたか、具体的な取組みを挙げさせて振り返らせる。	

指導事例（第１時／１時間）

１　ねらい

道路における様々な危険を理解し、その回避方法を具体的に考えることができる。

２　ポイント

・児童にとって身近に起こる可能性のある危険な場面を視覚資料で提示し、危険な理由と危険を回避するための安全な行動を具体的に考えさせる。

３　指導の実際

	○主な学習活動	◎支援・留意点　　■評価（評価方法）
導入	○交通安全について学習したことを振り返る。 ○本時のめあてを確認する。 どんなきけんがあるかを見つけ、安全な行動を考えよう。	◎４月の交通安全教室、生活科まちたんけん、学年遠足の際に学んだことを想起させる。
展開	○具体的な場面が分かる視覚資料から、どのような危険が起こるかを予測する。 ・個人で考えた後、ペアで考えを共有する。 ○危険の要因と起こりそうな危険について、ワークシートに書く。 ・歩道のギリギリに立っている。 →道路を走っている車と近く、ぶつかりそう。 ・友だちとふざけたり、あそんだりしながらわたっている。 →周りを見ていないから、車や自転車が来るのに気づかず、ぶつかりそう。 ・踏切の音が鳴っているのに、わたろうとしている。 →音が鳴っているのは電車がすぐに来る合図のため、よゆうをもってわたるためにもふみきりには入らない。 ○考えたことをグループで話し合い、発表する。 ○「交通安全教育ＤＶＤ」を見て、どうすれば安全なのかを理解する。	◎黒板に、４つの場面が描かれたイラストを掲示する。 ◎今までの経験や既習事項を参考に考えるように促す。 ◎何が危険なのか、どのようになりそうだから危険なのか等、理由を考えるようにさせる。 ○場面ごとに、危険を回避するための安全な行動を考えさせる。 ◎交通安全教育ＤＶＤを活用し、適切な対応の仕方について確認させる。
まとめ	○本時の学習内容を振り返り、今後意識することをワークシートに書く。	◎今後意識することについては、夏休みの過ごし方も踏まえて考えさせる。 ■道路における様々な危険を理解し、自分たちの安全を守るために自身が気を付けることを具体的に記述している。 （ワークシート）

児童の感想

・いつも通る道にも危険な場所があることがよく分かった。今までは危ないと思っても、どうすればよいか詳しく考えていなかった。自分の身は自分で守るために、いつでも安全な方法を考えて行動したい。

児童の変容

・事後指導の振り返りや日常的な安全指導の場面で、各自が自分が決めた交通安全に関する約束を継続的に意識させることで、落ち着いて登下校をしている児童が増えた。

交通に関する様々な観点からの学習を通して 主体的に交通ルールを守る態度を育成する学習の事例　交通

高等学校　１～３学年　総合的な学習の時間・特別活動（ホームルーム活動・学校行事）

授業づくりのポイント

○交通規則理解、加害者・被害者の立場からの理解、自転車整備に関する知識の習得等、交通に関する様々な観点からの学びを行うことで安全な自転車利用についての知識を深める。
○具体的な調査データを使用し、自らの行動と照らし合わせて改善策を考えさせる。

単元（題材）について

１　題材名　「主体的に交通ルールを守ることができるよう交通に関する知識の定着を図ろう」

２　目　標

Ⅱ－１、２、３、４

自転車に関する知識に総合的に触れ、主体的にルールを守ることのできる態度を育成する。

３　教材化の視点

全校生徒の約７割が自転車通学をしており、朝の登校時には通勤する一般の自転車・歩行者と合わさって校門は混雑をする。以前より校門前の交通マナーに対する苦情は多く、交通事故につながりかねない状況も発生していた。目の届かないところで交通事故も発生しており、自転車のルールの徹底を図ることが急務であった。

今回は多くの体験活動を実施し、生徒が様々な角度から交通安全に対して考えることができるように、外部の組織と連携をした。そこで得た知識と経験を活用して生涯を通じて安全な生活を送るとともに、進んで安全で安心な社会づくりに参加し貢献できるような人材の育成を目指す。

指導計画（１２時間扱い）

※以下の内容に加え、日常的に、登校時間帯において校門で指導を継続して行う。

時間	○主な学習活動	◎安全教育の視点に立った留意点
1	○スケアードストレート方式の交通安全教室および、学校周辺の実態に沿った交通マナー実例紹介【学校行事】	◎一般的な交通規則と事故の事例を学ぶとともに、本校周辺の実際に即した運転マナーを指導する。（Ｈ２９、５月）
2	○新しくなった交通規則周知【ホームルーム活動】	◎資料を配布し、予習を促す。（７月）
3	○交通事故被害者の声を紹介【総合的な学習の時間】	◎始業式において、被害者遺族の手記を朗読。被害者の悲痛な思いを理解させる。（９月）
4	○交通規則確認テストの実施【総合的な学習の時間】	◎簡単な交通規則の確認テストを実施。（１１月）
5	○自転車運転シミュレータ全員実施（１年生）【学校行事】	◎東京都教育委員会の協力で、自転車シミュレータの体験。（２月）
6	○スケアードストレート交通安全教室【学校行事】	◎交通事故の事例を学ぶ。（Ｈ３０、５月）
7	○交通ルール・整備についてのアンケート実施【ホームルーム活動】	◎外部組織から提供を受けたアンケートを実施。（７月）
8	○交通事故防止講話【学校行事】	◎終業式において気を付けるべき事例の紹介。（７月）

９	○被害者遺族の講話 【学校行事】	◎警視庁と連携し、「命を大切にする教室」を実施。被害者遺族の生の声。９月
１０	○自転車一斉点検の実施 【学校行事】	◎自転車商協同組合城東支部の協力により、全車一斉点検の実施。９月
１１	○交通規則確認テストの実施 【総合的な学習の時間】	◎簡単な交通規則の確認テストを実施。 １２月
１２ （本時）	○データから読み取る今後の課題探し 【総合的な学習の時間】	◎これまで学習したことの再確認と、データを確認して、これから自分が何をしなければいけないか、どうすれば安全で安心な社会にできるかを考える。２月

指導事例（第１２時／１２時間）

１　ねらい

データを活用して課題を発見し、これからの取り組むべき内容について具体的に考え、自ら発信する方法を考えることができるようにする。

２　ポイント

各自の意見をグループ内で発表し、議論した上でグループごとに全体へ紹介する。その考えになった理由をデータから読み取った部分と交えて説明させる。

３　指導の実際

	○主な学習活動	◎支援・留意点
導入	○本時のねらいの確認。 ・今までの活動を振り返る。 ・データから課題を見付け出し、発表する。 ・グループで共有・理解し、全体に発表できるようにする。 安全で安心な交通社会を実現するためには何が必要なのかを考えよう。	◎後半に話合いのグループが円滑に作れるよう、人数を確認し、あらかじめ振り分けておく。
展開	○今までの活動を振り返る。 ・スライドを見ながら、体験したことを確認する。 ○データから課題を見付け出し、改善策を考える。 ・配布された資料を参考に、課題を見付けるとともに、今後どのように交通安全に取り組むべきか、具体的な取組例を挙げながら計画する。 ○グループで共有・理解し、全体に発表する。 ・話合いを行い、グループ毎に発表する準備を行う。	◎資料を確認しながら、それぞれの体験活動が何を目的に行われていたかを記録させる。 ◎データの読み取りが円滑に行えていない場合は、例示等、支援する。 ◎話合いの方法は資料に添付する。うまく進まない場合は支援する。 ■これからの取り組むべき課題について具体的に考えている。（観察）
まとめ	○各グループの代表となる案を発表・共有する。	◎実際に実施できるよう、具体的な運用方法まで検討できるよう、声掛けを行う。 ■具体的に考えた取り組むべきことを、実施するための方法を考えることができる。 （観察・ワークシート）

生徒の感想

・この２年間で多くの事を経験し、安全に登下校が行えるようになってきた。自分が高齢者になっても、安全に自転車に乗れるようにしたい。自分がルールを守っていても、交通事故に巻き込まれないように気を付けなければならない。

生徒の変容

・この２年間で、近隣からの交通マナーに対する苦情は激減した。登校時の校門前の様子は大きく変わり、安全に道を譲り合う姿が見られるようになった。

保健の授業を通して 交通マナーの意識を高め 自ら危険を予測し 回避することができる生徒を育成する学習の事例　交通

高等学校　１学年　保健

授業づくりのポイント

○交通安全かるたを使用し、主体的、協同的に交通ルールを学べるようにする。
○学校近辺の標識等を使用し、身近なところに危険が潜んでいることを理解させる。
○危険予測・回避能力を高め、自ら危険を回避することができるようにする。

単元（題材）について

１　題材名　「自らの交通マナーの意識を高め、危険を予測し回避することができるようになろう」

２　目　標

Ⅱ－２　自転車の安全な利用と点検・整備

自転車の安全な利用・点検や整備について理解を深め交通法規を守って安全な乗車ができるようにする。

Ⅱ－３　二輪車・自動車の特性と心得

二輪車・自動車の特性について理解し、道路の安全な歩行や走行ができるようにする。

３　教材化の視点

２年間の指導を通して、生徒自らが交通安全についての意識を高めることができるよう「日常的な安全指導」「定期的な安全指導」を実施し、通学時における意識は高まってきた。しかし、第１学年の生徒は昨年度の安全教育を受講していないため、第２、３学年の生徒に比べて若干意識が低いように感じられる。そこで、「教科等における安全学習」として「保健」の授業で上記のテーマを学習することとした。特に本校は現在校舎改築中で大型ダンプトラックが往来しており、生徒の危険予測・回避能力を高めることは喫緊の課題であると考える。

指導計画（３時間扱い）

時間	○主な学習活動	◎安全教育の視点に立った留意点
1	○交通事故の現状から、課題を考える。 ・交通事故の要因を知る。 （主体要因、環境要因、車両要因） ○それぞれの要因から、自分にできることを考える。	◎交通事故の要因を十分に理解させる。 ◎自己の経験から、事故の要因を考えさせる。
2 （本時）	○運転手に必要な資質は何かを考える。 ・運転者の資質、マナーについて具体例を挙げる。 ○運転者として適切な判断をするために、危険予測をする。	◎交通ルール、マナーについて具体例を交えて理解させる。 ◎事故を防ぐために必要なことについて具体的に考えさせる。
3	○どのような責任をとらなくてはいけないのかを理解する。 ・交通事故を起こした際の責任について知る。（刑事上、民事上、行政上）	◎事故の罰則や加害者になった時の補償について理解し、加害者にならないために交通法規を守る意識をもたせる。

指導事例（第２時／３時間）

１　ねらい

交通事故を防ぐためのマナーを理解し、運転者として必要な資質を身に付け、適切な判断ができる。

２　ポイント

交通安全かるたやグループワークを通して主体的・協同的な学びを促し、自ら危険予測を考える力を身に付けさせる。

３　指導の実際

	○主な学習活動	◎支援・留意点　■評価（評価方法）
導入	○本時の内容・目標の確認をする。 ○交通安全かるたを行う。	◎かるたをグループごとで行い、「日常的な安全指導」、「定期的な安全指導」で学んだことを振り返る。
	交通事故を防ぐための運転者の資質、マナーを理解し、判断力を身に付けよう。	
展開	○運転者の資質、マナーについて考える。 ○運転者に必要な資質は、自他の生命を尊重する態度であることを理解する。 ○自転車においては、自転車安全利用五則を守ることが大事であることを理解する。 ○右図を示し、危険予測をする。 ○死角について理解する。 ・自転車側の死角 ・自動車運転者側の死角	◎考える時には個人で考えた後、周りの生徒と共に考える時間を与え、教え合いの時間を設ける。 ◎普段利用する学校近辺の道路にある標識を示し、なぜ標識が存在するのかを考えやすくする。 （危険予測の図） ■運転者の資質や危険予測について、具体的な内容を自分で考えることができる。 （ワークシート）
まとめ	○本時の内容を振り返り、交通安全に必要なルール、マナーを確認する。	◎生徒に答えさせることで、理解できているかを確認する。

生徒の感想

- 毎日通っている道だけど、あまり気にしていなかった。これからは標識を見ながら通学しようと思う。
- 見通しの悪い場所では十分に危険予測をし、事故に遭わないようにしたい。
- 交通ルールを守ることは、自分の身を守ることもそうだが、何より人の命を奪わないために必要だと感じた。

生徒の変容

- 学校近辺の写真を例示したためか、自分のこととして考えられているようだった。
- 朝の通学時、通用門の目の前の一時停止の標識を守ろうとする生徒が増えた。